

平成二十七年 度

神奈川学 園中 学校入 学考 査問 題

国

語

(A-1 日 程)

時 間 五 十 分

- 問題は、一ページから十五ページまであります。
- テスト開始前に、問題用紙のページに脱落がないかどうか確認しなさい。
- 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 文中からのぬき出しや答えに求められている字数は、各問いの指示に従いなさい。
特に指定がない場合は、句読点などの符号ふしごを入れても入れなくてもよい。

問題一

次の(1)～(10)の——線部の漢字にはその読みをひらがなで書き、カタカナは漢字に直して答えなさい。

- (1) ケイカイな足取りで進む。
- (2) ヨビに少しだけ取っておく。
- (3) もらった商品ケンを使う。
- (4) 人口は三十万人とスイテイされる。
- (5) 弓矢ですばやく的をイる。
- (6) 手のこんだ細工に思わず見入る。
- (7) 画一的なやり方で教える。
- (8) 家来に命令する。
- (9) 長い時間を経て再会する。
- (10) 車が道いっぱいになっっている。

問題二

次の(1)～(5)のことわざと同じような意味の熟語を後のア～オから選び、それぞれその記号で答えなさい。また、選んだ熟語をそれぞれ漢字に直して書きなさい。

- (1) 犬猿の仲
- (2) 石橋をたたいて渡る
- (3) 柵からぼたもち
- (4) かつぱの川流れ
- (5) 清水の舞台から飛び降りる

- ア ヨウジン
- イ ユダン
- ウ コウウン
- エ ケツシン
- オ フワ

問題三

次の(1)～(5)の——線部の敬語をふくむ表現について、使い方がふさわしければ○を、ふさわしくない場合は×をそれぞれ解答らんに書きなさい。また、×をつけたものについては、——線部全体を正しく直しなさい。

- (1) いま、父は外出していておられません。
- (2) 先生がこちらにまいました。
- (3) お客様がおこしになりました。
- (4) みなさま、どうぞこのお菓子をいただいでください。
- (5) これから開会を宣言します。

問題四

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

「失礼しました！」

最後まで元気にあいさつをしつづけたこのちゃんに、うけもちの部屋をまわり終えると、加藤さんは初めてねぎらいの言葉をくれた。

「おつかれさま。あなた、タフね。たいがいの子は、とちゅうでぼうつとなつちやうもんだけど」

その言葉の意味をさとしたのは、「ちよつと休んで」と中宮さんに連れていかれた休憩室で、さきに仕事を終えていた四人と再会したときだ。

卓上のおかしにがつついてた男子ふたりはともかく、^①女子のふたりはみごとに「ぼうつ」を絵に描いたような顔をしていた。

「相本さん、ゆうかちゃん。どうだった？」

声をかけても、返事がない。千鶴はうつろな目をしたままで、ゆうかはその千鶴のうでをぎゅつとにぎりしめている。

「長生きするの、やめたんだって」

「お母さんが寝たきりになったらどうしようって、こわくなつたんだって」

代わって答えたのは、敬太郎とタボだ。

「そっかあ」

なんだか急に気がぬけて、このちゃんはへたりとパイプ椅子に腰をすずめた。

「あたしも、百まで生きるのやめよっかな」

「え、松原まで？」

敬太郎が目丸くする。

ムリーダーであるのを思いだした。

「ゆうかちゃん、とりあえずいまは、自分の老後より、ここにいる人たちのことを考えよう。みんな、いやでも年をとつちやつたんだから、しょうがないよ。あたしたちが暗い顔してたら、みんなも暗い気持ちになつちやうし、ちよつとむりしても、最後まで笑つてよう。ね」

^②から元気をふりしほり、「ファイト！」とこぶしを突きあげる。

ファイト！ と、バスケット部の仲間たちなら返してくれるはずだった。

が、ゆうかはばたんとテーブルに顔をふして言った。

「その体育会系のノリ、あたしはむり」

— 中略 —

「あなた見たことある？ 美しいのよ、それはそれは。私の故郷はマナヅルの越冬地でね、毎年、冬になると飛んできたの。マナヅルがね、こう、ばさーつと翼を広げて飛ぶ姿……思いだすと、涙が出ちゃう。美しいのよ」

「いいなあ。あたしも見てみたい」

「いくらでも見られるわよ。十三歳だもの」

チームSの最後の仕事は、「話し相手」だった。二階のカフェテリアでくつろいでいるお年よりたちとの交流。このちゃんに声をかけてくれたのは、どこかわいらしい上品なおばあさんで、のんびりと言葉を交わしているうちに、このちゃんは^③ゆうかの一撃によるダメージからじよじよに立ちなおっていった。

「おばあちゃんは、いま、おいくつですか」

「ええっと、八十六になるかしら」

「わあ、すごい」

「どうして？ だれでも生きていれば年なんてとるものよ」

「松原は、なにがあっても落ちこまないと思つてた」

「そんなあ。つていうか、敬太郎くんたちは平気なの？」

「ぼくたちがまわつた部屋は、わりと元気な人が多かったんだ。みんな自分でジュース飲めたし」

「あ、そうなんだ」

どうやら、ここに入居している全員が弱りきつていないわけではないらしい。

少しほつとしたこのちゃんの横で、「ずるいよね」と、ゆうかが声をとがらせた。

「男子だけ、らかな仕事しちやつて」

「そう言われたつて、決めたの中宮さんだし。それに、ぼくがまわつた部屋だつて、認知症の人とかはいっぱいたよ。孫に会いたいつて泣いてる人もいた」

「かわいそうつて思わないの？」

「思うよ、もちろん。家族はなにしてるんだらうつて思う。でも、それでもここにいる人たちは、こういうところに入るお金があるだけ、まだ恵まれてるんじゃないのかな」

「つていうかさ、どんなふうでも、長生きしてるつてことは、いいことなんだよ」

タボが横から口をはさむと、ゆうかはますますむきになった。

「そんなことない。あんふうに生きてるなら、あたしは死んだほうがまし」

「それは、まだどうぶん死なないつて自信があるからじゃないの」

「だから、死ぬのはいいけど、老人になるのがいやなのっ」

敬太郎とタボがこまつた顔をするのを見て、このちゃんは自分がチー

「でも、八十六年も生きるなんて、すごいです。あたし、十三年目でも、ときどき疲れちゃうから」

「あら、ま、どうして？」

おばあさんが灰色の^④眉をよせる。

いけない。このちゃんはあわてて撤回した。

「うそ、うそ。あたし、ぜんぜん疲れません。毎日、すつごく楽しいです」

安心してもらおうと力をこめたのに、^⑤なぜだか、おばあさんはさびしげな目をしておしだまつた。

「ゆうかちゃん、待つて！」

千鶴のさげび声したのは、そのときだ。

ハツとふりむいたこのちゃんの目に、泣きながら廊下へ飛びだしていくゆうかの姿が映つた。そのすぐあとを千鶴が追つていく。

ふたりがカフェテリアから去つたのを見て、(A) このちゃんも腰をうかした。

「すみません。ちよつと……」

一瞬、見失つた二人を見つけたのは、二階の女子トイレだった。洗面台にシなだれかかつて泣いているゆうかをなだめるように、千鶴が背なかをさすつてやつていた。

「ゆうかちゃん、だいじようぶ？ どうしたの」

なにを聞いても、ゆうかはただただしゃくりあげるばかり。

代わりに横から千鶴が答えた。

「おばあちゃんと、ゆうかちゃんと、わたしと、三人で話してたの。そしたら、急にゆうかちゃんが泣きだして」

「理由もなく？」

「理由は、その……最初ね、おばあちゃんがゆうかちゃんに言ったの。なやみがあるなら話してちょうだい、って。なんでかわかんないけど、ゆうかちゃんにだけ。そしたら、ゆうかちゃんが……」

(B) ゆうかをうかがい、千鶴が声を落とす。

「人間を信じるのがむずかしい、って」

このちゃんはどこきつとした。

人間を信じるのがむずかしい。⑥ ゆうかがそんなことを考えていたなんて。

「そしたらね、おばあちゃんが言ったの。簡単だよ、って。人をゆるすことに上手になればいい、そしたら信じることもラクになるよ、って。わたしはよくわかんなかったんだけど、それを聞いたら、ゆうかちゃんが急に泣きだして……」

千鶴がまたゆうかをチラ見する。

「なんとなくだけど、たぶん、美奈ちゃんのこと」

「美奈ちゃん？」

「思いたんじやないかな。ゆうかちゃん、ずっと気にしてたから」

「え」

「ひどいこと言っちゃったって」

⑦ その声にあおられたように、ゆうかが一段と泣き声のポリウムをあげる。

そういうえば、とこのちゃんは思った。このところ、ゆうかと美奈がいつしよにいるのを見かけない。代わりに、ゆうかはいつも千鶴たちのグループにいる。ふたりになにかあったのか。

気になる。が、このちゃんにはカフェテリアにいる人たちのことも気になった。ボランティアとしてここにいる以上、いまは自分たちの

た。

「あら、ほら、もどってきたよ」

「よかった、よかった」

三人の帰りを待っていた車椅子のおばあさんたちが、ゆうかをかこんで、いつせいにしゃべりだしたのだ。

「悲しくなっちゃったの？ かわいそうに。かわいいお目々が真っ赤だよ」

「ごめんねえ。おばあちゃんが、悪い話をしちゃったのかねえ」

「十三歳なんて、一等、感受性が強い年ごろなんだよ。あたしらにもあったっけねえ、そんな年のころが」

「ジュース飲む？ おばあちゃんのアメなめるかい？」

このちゃんがふいをつかれたのは、口々にゆうかをはげますおばあさんたちが、どこか生き生きとして見えたことだ。涙もろい女の子を心配しながらも、その声にはよゆうとハリがあった。さつきマナヅルの話をしてくれたおばあさんも、にこにここと目じりをたらしめてゆうかの手をさすっている。

あ、そっか。

老人たちのまんなかではにかむゆうかを前に、この日、⑪ はじめてこのちゃんの顔から笑みが消えた。

⑫

森 絵都 『クラスメイツ (後期)』

問題よりも、⑧ 話し相手としての役目をはたすこと、少しでもお年寄りたちをはげますことを考えなきゃいけないのでは、と。

「ゆうかちゃん」

そこで、体育会系のノリにならないよう、声のトーンに気をつけながら言った。

「このことは学校にもどってから、ゆっくり話さない？ きつと、まこちゃんも相談にのってくれるよ。とりあえず、いまはカフェテリアにもどろう。ね、おばあちゃんたち、心配してるよ」

またはねつけられるのか。内心びくびくしていたものの、ゆうかは(C) うなずいた。

「うん。わかった」

洗面台の鏡ごしに、ゆうかの赤い目と目が合う。

「このちゃん。さつきはごめんね。やなこと言っちゃって」

「え？ ううん、ぜんぜん」

「あー、チームSでよかったって、いまは思う。あのおばあちゃんに会えたから」

ぼろり。言いながらまたほおに涙を^{なな}伝える。

⑨ ゆうかちゃんって、いろんな意味で、すなおな子なんだな……。いつも

⑩ 素通りしていた家にはじめて上がったみたい、このちゃんはこのとき、ゆうかという子の奥の部屋^{おく}まではじめて足をふみ入れた思いがした。おなじクラスにいても、気づかなかったこと。毎日、教室で顔を合わせつづけた八ヶ月よりも、今日一日の発見のほうが大きかった気がする。

さらなる「気づき」がもたらされたのは、ゆうかがトイレトーパーで鼻をかむのを待って、いつしよにカフェテリアへもどってからだっ

問一

——線部①「女子のふたりはみごとに『ぼうっ』を絵に描いたよ
うな顔をしていた」とありますが、その理由としてもっともふさ
わしいものを次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

ア 施設であたえられた仕事の量がたくさんあって、走り回っ
て疲れきってしまい、座りこんで動けなくなっていたから。

イ 施設での作業時間が長くなり、その結果、休むことができ
ないようないそがしさで働いているスタッフの様子に驚いて
いたから。

ウ 施設で働いている職員の、仕事の幅が広く労働量が多いの
で、自分が手伝っても仕事が減らずに無力感を感じていたか
ら。

エ 施設にいるお年よりのたちの状況の厳しさに衝撃を受け、現
実を受け止めきれずどうしたらよいかわからなくなっていた
から。

問二

——線部②「から元気をふりしほり、『ファイト!』とこぶしを
突きあげる」とありますが、このときのこのちゃんの気持ちの説
明としてもっともふさわしいものを次のア～エから選び、その
記号で答えなさい。

ア 自分も施設での経験に打ちのめされていたが、なんとか周
囲を上げまされなければならないと思い、無理に明るくしてい
る気持ち。

イ 年をとることがいやだとむきになっている友達に対して、
年をとることから話題をそらすことで、冷静にさせようとす
る気持ち。

問四

——線部④「眉をよせる」とありますが、ここではどのような気
持ちを表していますか。もっともふさわしいものを次のア～エ
から選び、その記号で答えなさい。

ア 心配して相手のことを気にかける気持ち。

イ 相手のことを不快に思っ嫌がる気持ち。

ウ 相手に親しみを感じて興味をもつ気持ち。

エ 相手の様子に疑いを持ち不安になる気持ち。

問五

——線部⑤「なぜだか、おばあさんはさびしげな目をしておし
だまった」とありますが、なぜ「さびしげな目」になったのです
か。その理由としてもっともふさわしいものを次のア～エから
選び、その記号で答えなさい。

ア 気持ちを聞いてあげたかったのに、このちゃんが心を開い
てくれないので、がっかりしたから。

イ このちゃんが急に態度を変えたので、自分がなにか悪いこ
とでも言ったのかと心配になったから。

ウ このちゃんと話しても、自分の若いころとは時代がちがつ
いて話の内容がよく伝わらないと思ったから。

エ 自分が年をとっているのに、このちゃんからさらわれてし
まったのではないかと不安になったから。

問六

() A～Cに入るもっともふさわしい語を、次のア～エか
らそれぞれ選び、その記号で答えなさい。

- ア すんなりと
- イ あらたに
- ウ とっさに
- エ ちらりと

ウ いっしょに来た仲間同士が言い争っているのを見て悲しく
なり、仲直りさせてチームとしてひとつにまとめたと思う
気持ち。

エ 自分はみんなとちがうとほめられたことを思い出しうれし
かったので、バスケット部の活動の時のようにそれをはげみにし
てがんばる気持ち。

問三

——線部③「ゆうかの一撃によるダメージ」とありますが、具体
的にはこのちゃんにとってどういうダメージだったのですか。
その説明としてもっともふさわしいものを次のア～エから選び、
その記号で答えなさい。

ア 自分がチームリーダーとしてみんなに呼びかけをしたのに、
バスケット部までばかにされたこと。

イ せっかくな気持ちを前向きにして声をかけたのに、それをば
ねつけられ傷ついたこと。

ウ 悪気のない何気ないひとことによって、お年よりの存在が
否定されてしまったこと。

エ 自分はお年よりのことを学ぶために施設に来たのに、学ぶ
意味がないと思われたこと。

問七

——線部⑥「ゆうかがそんなことを考えていたなんて」とありま
すが、ゆうかはこのような状況だったと考えられますか。その
内容を説明した次の文の()のⅠ～Ⅲに入るもっともふ
さわしい語をⅠは二字で、Ⅱは三字で、Ⅲは十字で、それぞれ
文中からぬき出して答えなさい。

ゆうかは(Ⅰ)と仲良しグループだったが、どうやらふた
りになにかあった様子で、相手を上手に(Ⅱ)ことができ
なくて(Ⅲ)と思っている状況であると考えられる。

問八

——線部⑦「その声にあおられたように、ゆうかが一段と泣き
声のポリウムをあげる」とありますが、泣き声が大きくなっ
た理由としてもっともふさわしいものを次のア～エから選び、
その記号で答えなさい。

ア 千鶴が言った言葉を耳にして、自分がお年よりから「なや
みを話してほしい」と急に言われた時の驚きとショックを思
い出したから。

イ 千鶴の言葉を聞いているうちに、自分が、以前美奈とケン
カをしたときに、美奈にひどいことを言ってしまったことを
思い出してつらくなったから。

ウ 千鶴になぐさめてもらっているうちに、美奈と仲たがひし
たあと友人がいなかったことを思い出し、自分自身がかわい
そうに思えたから。

エ 千鶴は心から自分をなぐさめてくれるのに、このちゃ
んからはお年よりのところから走り出てきた自分の行動を責
められているように感じたから。

問九

——線部⑧「話し相手としての役目」とありますが、このちゃんはどういうことが「役目」だと思っているのですか。もっともふさわしい部分を文中から「くこと」につながるように十字程度でぬきだして答えなさい。

問十

——線部⑨「ゆうかちゃんって、いろんな意味で、すなおな子なんだな……」とありますが、どうしてそう感じたのだと考えられますか。その理由としてもっともふさわしいものを次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

ア 自分がした提案を、ゆうかはいやがってこぼむのではないかと思っていたが、カフェテリアにもどることにすんなり同意してくれたから。

イ 自分が心配しているのは、残してきたお年よりのことなのに、ゆうかはゆうかのことを心配してくれているのだと思い、自分を信じてうけいれてくれたから。

ウ お年よりがなやみ事を話してほしいといったことに対して、ゆうかは、自分が考えていた苦しみやつらさをしようじきに話せたから。

エ ゆうかは、話しかけてくれたおばあちゃんとの出会いとその言葉に感謝し、また自分が悪かったと思うことを率直に謝ることができたから。

問十二

——線部⑪「はじめてこのちゃんの顔から笑みが消えた」とありますが、それはどうしてだと考えられますか。その理由としてもっともふさわしいものを次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

ア お年よりが、自分が話しかけていた時よりも元気で余裕をもっている姿を見て、自分の努力がむなしと知り残念に思ったから。

イ お年よりの悪口を言っていたゆうかだけがお年よりに囲まれて楽しく話しているのを見て、嫉妬する気持ちが生まれたから。

ウ 無理をしても明るく笑っていることが、お年よりにとって良いことだと思っていたことが誤りだったことに気づいたから。

エ お年よりのアドバイスがゆうかをすくったのを実際に見て、お年よりの経験を軽んじていた自分の考えの浅さを知ったから。

問十一

——線部⑩「素通りしていた家にはじめて上がったみたい、このちゃんはこのとき、ゆうかという子の奥の部屋まではじめて足をふみ入れた思いがした」とありますが、それはこのちゃんのどのような気持ちを表していますか。その内容の説明としてもっともふさわしいものを次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

ア クラスメイトだけれど、自分は直接かわる機会がないと思っていたゆうかと話し合う機会が生まれ、おたがいに理解しあえたといううれしい気持ち。

イ ゆうかが困っているのを間近で見て、苦しさやつらさに同情し、もっとなやみの内容をくわしく聞いて、自分ができることをして助けてあげたいと思う気持ち。

ウ いつもは話がかみ合わず、ゆうかのことが苦手な話を話してきたが、人には必ず長所があることを知り、学校にもどつてからの生活に期待している気持ち。

エ ゆうかについて、ふだんはどのような心を持った人なのかまでは考えることもしなかったが、人間性の深いところになれることができ、しみじみと心を感じている気持ち。

問十三

⑫には、このちゃんが「あ、そっか」と気づいた内容が入ります。もっともふさわしい文を、次のア～オから選び、その記号で答えなさい。

ア だれだって、ひとりよりみんなといっしょにいたいんだ……。

イ だれだって、はげまされるよりは、はげましたいんだ……。

ウ だれだって、みんなでおしゃべりするのが楽しいんだ……。

エ だれだって、かこまれてまんなかにいるのがうれしいんだ……。

オ だれだって、ゆうきをもってここを開けばわかりあえるんだ……。

問題五

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

いまの時代は環境問題やエコに関心が高まっていますが、私が十代のころは、ちょうど①高度経済成長期によつて失われたものへの反省がはじまった時代でした。

テレビでも、文明が自然を壊すことに警鐘を鳴らす番組がしょっちゅう放送されていたし、「戦争」と「公害」がこの世界の一大悪として、しきりにとりあげられていたのです。

学校でも、先生が②こんな話をしてくださったのを覚えています。「いいか。牛の群れを思い浮かべてみる。君は、先頭を走る牛だとする。前を見ると、あつ、崖がある。君は後ろを向いて『崖があるぞ』と警告して、立ち止まろうとする。前にいる牛たちも、気がついて止まろうとするだろう。でも後ろにいる牛たちは、見えていないから、そのままどんどん、どんどん押し寄せてきて、結局、牛たちの群れは、止まることができずに崖から落ちていくんだ」

私の脳裏には、なす術もなく、崖から一頭、また一頭と転がり落ちていく牛たちの姿が、まざまざと浮かんでいました。

その寓話が意味していたのは、たとえ科学者たちがさまざまな危険に気づいて警鐘を鳴らしたとしても、間にあわない場合があるということです。

だとしたら、危険を事前に察知して止めなければいけない。ところが、人間って、自分の目で見てから、それが起こってからでないと、それがどんなに危険だと言われても、リアリテイを持ってやめる気にならないんですね。事前の想定だけでは、③□をあげないと

(注1) 警鐘……よくない事態に向かっていることを告げ知らせるもの
(注2) 寓話……教訓をふくむ短い物語

私も、自然の代弁者になりたいと願いながら、実際には文明の恩恵を受けて暮らしていました。

自然を守ろう、環境破壊はいけないことだというのは簡単で、まったく正しいことのように思えますが、電気を使い、文明がもたらす便利さを享受しているのは、ほかならぬ自分たちであることも、見逃すわけにはいきません。

⑦境界線の上に立つ、というのは、たとえば、そういうことです。

①どちらか一方が正しいと信じこんで、疑いもしない人間は、もう一方を、理解しがたい他者として糾弾して排斥しようとするかもしれない。理想を掲げて声高に自分の主張をする人間は、しばしば、そういう己の傲慢さに気づかないものです。

②のぼせやすく、そのことで失敗ばかりしていた私は、自分が、そういう人間になってしまふことをなによりも恐れました。

③そう強く思うときほど、注意深くなる。物事は、深く考えれば考えるほど、どちらとも言えなくなるのだから。

④境界線の上に立っている人は、私に、そのことを教えてくれました。両側が見えるからこそ、どちらにも行けない哀しみがあるのです。

バルトス・ヘップナーの『コサック軍 シベリアをゆく』を読んだのは、高校生のときでした。
コサック軍によるシベリア征服を描いた歴史物語で、コサックの首

(注4) 享受……受け入れて自分のものとしていること
(注5) 糾弾……罪や責任を問いただし批難すること

というのが恐ろしい。
それでも、ひとりひとりは、何かをしようという気になるかもしれない。

けれど、ひとりがそれを止めようとしても、集団になってしまったら、なぜ止まらなければいけないのかも理解できないまま、あの牛の群れのように崖の向こうに次々と転げ落ちていくことしかできないんじゃないか。

それは、じつに④生々しい恐怖でした。
⑤ひとりの人間が考えることと、群れとしての人類が引き起こすことは、必ずしも一致しない。

戦争や公害、あるいは原発の問題を例にひくまでもなく、人類の歴史は、そうしたことを繰り返してきたのです。

⑥「まるでひとつの毛糸玉みたいだね」
友達とそんな話をしたのを覚えています。誰かが端っこをひっぱつたら、やがて誰もが影響を受けずにはいられない。だとしたら、どんな人も「自分には関係ない」とは言えない。そう思いました。

当時の私は、かつてはほかの動物たちと同じように、野にある生き物だった人間というのが、いったいいつからそれとはかけ離れた道を歩みはじめたのかということに強い関心がありました。人間は、いつしか群れとなって社会を作り、文明の中で暮らすことを選んだのです。
⑦ターザンに惹かれたのも、ターザンが、自然と文明、そのふたつの境界線の上に立っていたからだと思います。

(注3) ターザン……類人猿に育てられた男が後に文明社会に暮らすという小説の主人公

領エルマークが、タタール軍と戦う日々を描いています。
コサックは、ロシアの少数民族です。エルマークは、それまでコサックたちを率い、⑧辺境を生きる術として略奪を繰り返していたのですが、シベリア遠征を命じられたことで、この戦いに勝てば、ロシア皇帝に自分たちのことを認めてもらえるんじゃないかという気持ちが生じます。

(A) これは戦争を描きながらも、支配される側のマイノリティと支配する側のマジョリティの関係を描いた物語でもあるのです。
エルマークは、皇帝からもらった鎧を身に付けていたがために水の底に沈んで死んでしまいます。その最期は、少数民族の首領としてコサックとロシアのあいだで葛藤した⑨彼の人生を象徴的に表していました。

(B) この『コサック軍 シベリアをゆく』には続編があつて『急げ 草原の王のもとへ』では、シベリア征服を、反対のタタール軍の側から書いています。
同じ戦争を、ロシア側とタタール側、両方から描いているので、エルマークも、一方では英雄だと思われているけれど、もう一方では悪魔だといわれています。敵と味方がひっくり返るわけだから、それぞれの正義も、まったく違います。

⑩歴史というものの相対性を、同じ作家が、⑪一体のふたつの物語として描きわけていることにワクワクさせられました。

(注6) 辺境……中央から遠く離れた国境のあたり
(注7) マイノリティ……少数派
(注8) マジョリティ……多数派

どちらか一方の側から見ただけでは、見えない景色があるのです。境界線の上に立つ人は、それを見ているのだと思います。

(C) とても孤独だし、人から理解してもらえないこともあると思います。結論めいたことを言うこともできずに、それでもじつと考

えつづけ、沈黙しているかもしれない。

私は、^⑫そういう人に惹かれるし、そういう人のまなざしが見ているものを、自分も見てみたいと思うのです。

—— 上橋 菜穂子 『物語ること、生きること』

問一 —— 線部①「高度経済成長期によって失われたもの」とありますが、ここでは何をさしていますか。もっともふさわしい熟語を文中からぬき出して答えなさい。

問二 —— 線部②「こんな話」とありますが、この話の中に出てくるⅠ「崖」Ⅱ「前にいる牛たち」Ⅲ「牛たちの群れ」は、それぞれ何をたどっているのですか。もっともふさわしい一語を、この先生の話のあとの文中からそれぞれぬきだして答えなさい。

問三 —— 線部③「□をあげない」とありますが、これは「行動にとりかかろうとしない」という意味です。□に入るもっともふさわしい語を次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

ア 腰 イ 足 ウ 手 エ 顔

問四 —— 線部④「生々しい」とありますが、ここでの意味としてもっともふさわしいものを次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

ア 生き生きしているような
イ 新鮮^{しんせん}であたらしいような
ウ 目の前でみているような
エ 痛みをとまなうような

問五 —— 線部⑤「ひとりの人間が考えることと、群れとしての人類が引き起こすことは、必ずしも一致しない」とありますが、それはどのような意味ですか。その意味の説明としてもっともふさわしいものを次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

ア 人間が個人で考えることをやめてしまうと、人類の行く先があやうくなるということ。
イ 人間が個人として意図したことが、全体の方向性になるとはかぎらないということ。

ウ 人間は、ひとりひとりとは良心的でも、多数派の考え方に影響されてしまうということ。
エ 人間は、全体の意見を大切にするために個人の意見をのべることがためらってしまうということ。

問六 —— 線部⑥「まるでひとつの毛糸玉みたい」とありますが、それはどういうことをたとえているのですか。それを説明した、次の文の() () に、文中のことは使って十字程度でまとめ、説明を完成させなさい。

人類は、() () ということをたとえている。

問七 — 線部⑦「境界線の上に立つ、というのは、たとえば、そういうことですか」とありますが、「そういうこと」はどういうことですか。それを説明した、次の文の（Ⅰ）と（Ⅱ）に入るもつともふさわしい語を、Ⅰは四字で、Ⅱには二字で、それぞれ文中からぬきだして答えなさい。

「境界線の上に立つ」ということは、（Ⅰ）をやめるべきだと考えながらも、自分も（Ⅱ）の中で暮らしていることを意識し、幅の広い視野に立つことである。

問八 次の一文が入るところは①～④のうちどこですか。もつともふさわしい場所を選び、その番号で答えなさい。

自分は正しい。

問九 — 線部⑧「そういう人間」とありますが、それはどういう人間のことですか。その説明としてもつともふさわしい部分を、文中から二十字程度で二か所ぬき出して、それぞれ最初と最後の五字で答えなさい。

問十 （ ） A～Cに入るもつともふさわしい語を、それぞれ次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

ア むしろ イ しかも ウ つまり エ だから

問十二 — 線部⑩「歴史というものの相対性」とありますが、それはどのようなことですか。その説明としてもつともふさわしいものを次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

ア 歴史というものは、時間がたてばいろいろな見方が出てくるのものごとの評価が変わるということ。
イ 歴史というものは、当時何がおこったのかだれも見聞きしていないので、新しい発見によって変化することもあるということ。

ウ 歴史というものは、同じことながらも異なる民族からの見方によっては全く逆の評価になるということ。
エ 歴史というものは、絶対的な正義を明らかにするのが目的だがそれは困難であるということ。

問十三 — 線部⑪「一体」のにもつともふさわしい二字の漢字を入れて四字熟語を完成させなさい。

問十一 — 線部⑨「彼の人生を象徴的に表していました」とありますが、それはどういうことですか。その説明としてもつともふさわしいものを次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

ア 彼は、大国の一員として戦うことになり、大国の命令を果たそうとして次第に身動きがとれなくなり、ほろんでいかにざるを得なかったということ。

イ 少数民族のコサックは生きる術としてさまざまな土地で略奪をしていたので、彼もまた、武力で戦うことでしか活躍できる道がなかったということ。

ウ 大国が少数民族に対して自分たちの文化を押しつけていることがおたがいの理解をさまたげる結果となり、彼も理解されずに死ぬしかなかったということ。

エ 彼は少数民族として生まれたことに満足せず、大国で高い地位を得ることを目指して生き、地位を得る代わりに死んでいったということ。

問十四 — 線部⑫「そういう人」とありますが、それはどのような人ですか。その説明としてふさわしくないものを次のア～エから一つ選び、その記号で答えなさい。

ア 同じ戦争でも、反対の側から描くと、ひとりの人が悪魔にも英雄にもなることを知っている人。

イ 世間の人に理解されなくても、多くを語ることをせず、いつも事実だけを見つめている人。

ウ たとえ孤独であっても、一方からだけ見たのでは見られないものを見る視点を持っている人。

エ どちらか一方から見ただけの正義を疑い、結論が出なくとも考えつづけるのをやめない人。

解 答 用 紙 (A-1 日 程)

国 語

受 験 番 号

氏 名

得 点

問 題 五				問 題 四				問 題 三		問 題 二	問 題 一			
問十	問九	問七	問三	問一	問十二	問八	問六	問一	(4)	(1)	(1)	(6)	(1)	
A	最初	I					A		正誤	正誤	記号	細工	ケイカイ	
							B		訂正	訂正	漢字			
B			問四		問十三	問九		問二						
				問二			C				(2)	(7)	(2)	
		II		I							記号	画一	ヨビ	
C	最後		問五				問七	問三			漢字			
				問八				I		(5)	(2)			
問十一									正誤	正誤	(3)	(8)	(3)	
			問六	II			II		訂正	訂正	記号	家来	ケン	
								問四			漢字			
問十二	最初						III				(4)	(9)	(4)	
									問五			記号	経	スイテイ
				III			問十			(3)	漢字	て		
問十三														
											正誤			
一 体	最後										訂正	(5)	(10)	(5)
問十四							問十一					記号	連	イ
											漢字	なっている	る	